

2024年度 中期経営計画

**年間評価一覧
(大科目・中科目)**

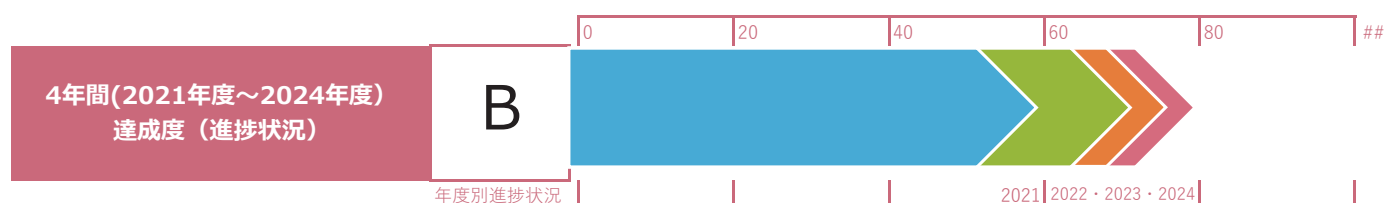


学校法人 茨城キリスト教学園



- ・広報および募集活動の質を向上させ、入学定員を確保する。
- ・学園の文化・教育・研究を伝える広報戦略を強化する。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%～99%達成している
	[B]61%～80%達成している	[C]41%～60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[－]0%、もしくは該当しない	



大科目：4年間の実行結果・評価説明

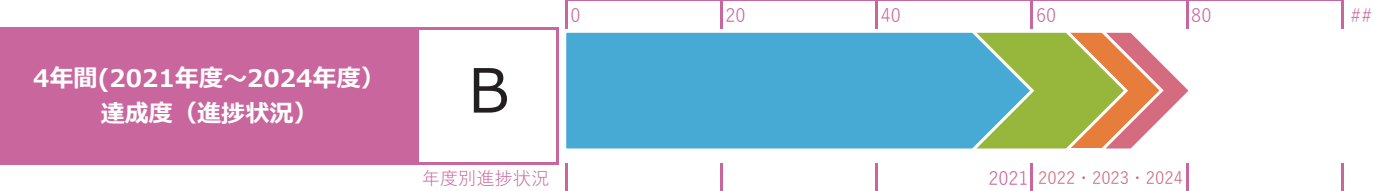
大学	入試や学園ブランドに関する広報戦略の当初の目標は、一定程度達成している。少子高齢化という厳しい局面を見据え、効果的・組織的な広報戦略を練り直す必要がある。
認定こども園	せいじ園・みらい園ならではの保育内容と大学との連携を広報に活かした。日立市の人口減少や増加する保育ニーズを踏まえた適正な入園者数の確保が課題である。
中学校 高等学校	ホームページの更新、中学校や塾への訪問を通して広報活動を強化し、学園の環境の良さと魅力を大いにアピールできた。
法人事務局	キアラ館竣工50周年に代表される学園ブランド構築に向けた広報展開を行い、メディアや専門誌でも取り上げられた。
キリスト教 センター	本学園の象徴でもあるキアラ館の魅力を、竣工50周年事業や紹介パンフレット作成により発信することができた。

1. 学生募集に効果的な広報活動と入試制度の再構築		B	
大学	広報活動や進路相談会への積極的参加、入試データの分析はできているため、次の取り組みへの検討を進めていく必要がある。		
2. 園児の安定的確保と広報誌の強化		C	
認定こども園	せいじ園・みらい園合計では総園児数が利用定員に達していない。みらい園も適正な利用定員の検討が必要である。利用者のニーズを踏まえ、園児の安定的確保に努める。		
3. 学校の魅力の情報発信力強化		A	
中学校 高等学校	受験希望者や地域社会に対してはSNSを中心とした広報活動を展開し、オープンキャンパスはもちろん、学園祭でも多くの人を集めることができた。		
4. 豊かな自然、歴史と伝統をふまえた革新的な学園ブランド構築		B	
大学	組織的な広報の在り方は、毎年のように課題として挙がっている。学園広報を組織的に取りまとめ、計画的に情報発信するための体制（実働部署）が必要であろう。		
認定こども園	年々、茨城キリスト教大学との連携を強化し、広報の効果もあり、附属園ならではのブランド構築が強化してきている。		
中学校 高等学校	オープンキャンパスでは総合学園の環境と魅力を、クリスマスのメディア放映ではクリスマススクールとしての格式と伝統を大いにアピールすることができた。		
法人事務局	キアラ館竣工50周年や一部学科の開設20周年に代表される地域に根差した学園の歴史を広報に繋げ、学園ブランドの構築につとめた。		
キリスト教 センター	2024年度はキアラ館竣工50周年事業を実施し、キアラ館の魅力を発信できた。その一環で作成したパンフレットも好評で、式典以降も、随時、希望者に配布している。		



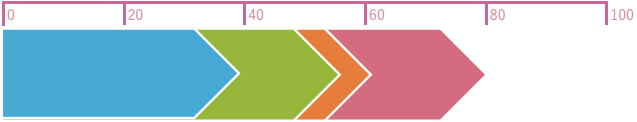
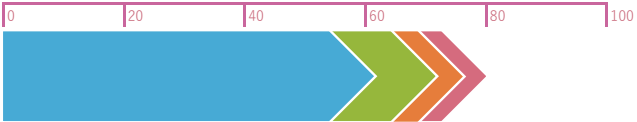
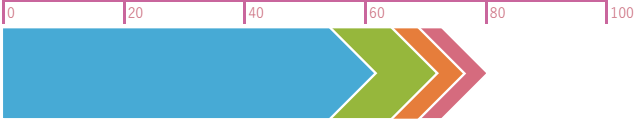
- ・隣人愛の精神を持ち、主体的に学び、次世代へ切り拓く人間を育成する教育を行う。
- ・多様性のある研究活動を推進し、地域・世界への貢献を果たす。

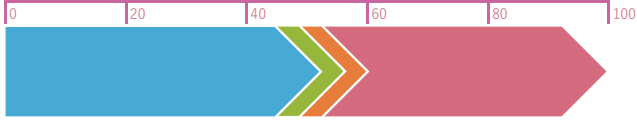
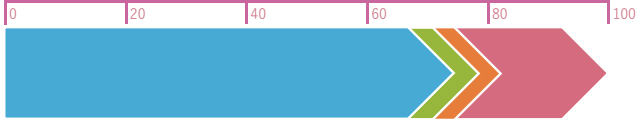
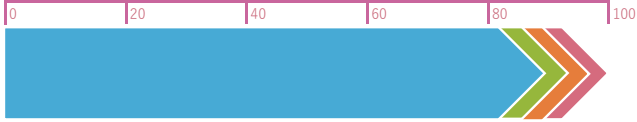
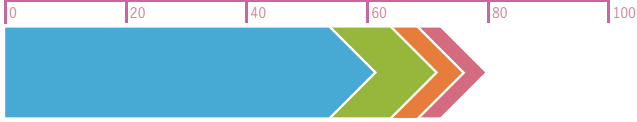
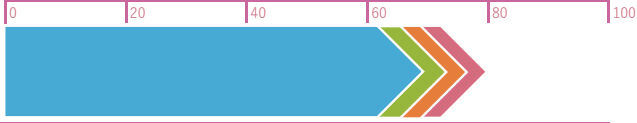
達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%～99%達成している
	[B]61%～80%達成している	[C]41%～60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[－]0%、もしくは該当しない	



大科目：4年間の実行結果・評価説明

大学	建学の理念に基づくキリスト教教育や教養教育の深化、またそのための研究活動に努め、その成果を測る質保証方針も公表済みであり、推進に資する評価体制を整えた。
認定こども園	建学の精神に基づいて園児を大切にする教育・保育を継続し、大学や中学高校との連携をせいじ園・みらい園の特色としてアピールしていく。
中学校 高等学校	建学の精神に基づいた教育活動を実践するため、教職員の研修を強化した。また、総合学園の強みを生かし、他部局との連携を図った。
法人事務局	職員のSD研修においては実技研修も取込み、日常業務に役立てられるスキル修得に取り組んだ。
キリスト教 センター	キアラ館の特性・魅力を生かしてのコンサートや講演会の実施、また、来場できない方の為のオンライン配信も安定的に実施できた。

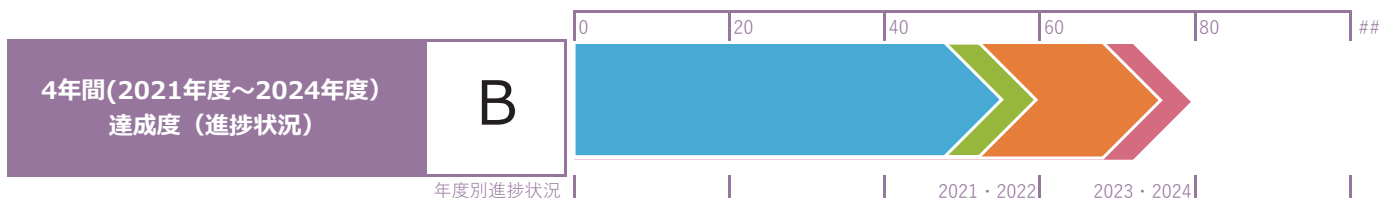
1. 建学の理念に基づいた教育		B	
大学	建学の理念に基づき、教養力と地域・国際社会への貢献力を高めるための全学的取り組みの一環として未来教養学環を開設した。今後も各部局間との連携を深めていく。		
認定こども園	建学の理念に基づいた一人一人の園児を大切にする教育・保育が保護者から評価され、心の育ちを実感する保護者が多い。今後も地域、家庭を巻き込んで維持・強化していく。		
中学校 高等学校	従来の放送礼拝に加え、讃美礼拝や生徒主体の礼拝などにも取り組み、充実した実りある礼拝が実践できた。生徒主体のボランティア活動も推進した。		
2. 教育の質保証		B	
大学	2024年5月の「内部質保証方針」を公表したこと、またそのなかにアセスメント・ポリシーに相当する内容を含めたことをもってBとした。		
3. 学生支援体制の充実		B	
大学	学長が組成したDX推進プロジェクトチームの答申において、学生相談に資する施策が示された。また「内部質保証方針」に生活満足度調査を盛り込んだ。		
4. 教職員研修の充実		B	
大学	学長主導の全学FDと各学科FDが継続的に実施されてきたが、今後のFD/SDについては公表済みの「内部質保証方針」に基づく評価結果を根拠に企画することとした。		
認定こども園	2024年度は保育教諭の研修に加え、主任2名が保幼園にて特別研修・視察の機会を設けることができた。今後も学びを深める機会を充実させていく。		
中学校 高等学校	教職員研修の充実のための研修プログラムを増やし、参加を強く促した。		
法人事務局	職員の研修意欲を高め、日常活動にも資することを目指し、座学での研修に加え、心肺蘇生やAED操作の実技研修も実施した。		

5. 多様な研究の推進		A	
大学	多様な研究として、産学連携の実施や研究終了後の成果発表をはじめとした活動を保ちながらも、新たな科研費の採択がなされた。また、学術センターを中心に科研獲得のための積極的な取り組みが推進された。		
6. 大学と連携した特色ある保育の推進		A	
認定こども園	茨城キリスト教大学教員と園管理者の協議会を実施した。地域・国際交流センターを通して留学生との交流を深めた。今後も大学との連携をこども園の特色として推進していく。		
7. 大学生の実習受け入れ態勢の充実		A	
認定こども園	資格を取得するための実習だけではなく、子どもを知るための場として様々な立場の学生を受け入れることができた。また、大学の担当教員と協議する機会も持つことができた。		
8. 中高一貫教育の充実と発展		B	
中学校 高等学校	高校2年次からの「一貫特進SAクラスと高入特進SGクラスの合併」を軌道に乗せた。また、海外研修旅行をオーストラリアに変更して2年目を迎えた。		
9. 法人内中大連携、高大連携の推進		B	
中学校 高等学校	茨城キリスト教大学教員を招聘し、探究活動、職業ガイダンス、模擬授業ガイダンス、食育講座、いのちの教育を行った。		
10. チャペルのあるキャンパス・ライフ		B	
キリスト教 センター	2024年度もキアラ館の特性や魅力を生かした企画チャペルが実施できた。併せて、事情により来場できない学生・教職員の為のオンライン配信も安定的に継続した。		



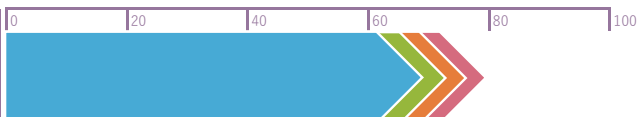
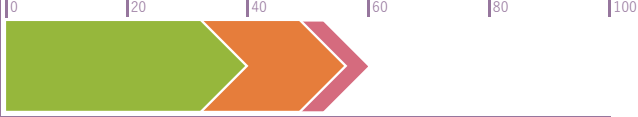
- ・地域に深く根ざし、国際社会に貢献する学園のブランド力を確立する。
- ・地域との連携活動を強化する。世界とつながり世界に学ぶ教育を深化させる。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%～99%達成している
	[B]61%～80%達成している	[C]41%～60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[-]0%、もしくは該当しない	



大科目：4年間の実行結果・評価説明

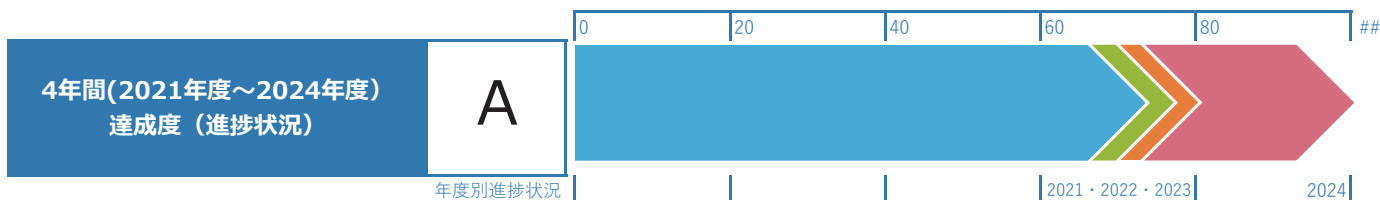
大学	知の拠点として公開講座やリカレント教育を実施し地域社会との連携を進めている。海外提携校との連携・協働をさらに強化しつつ学内と地域におけるグローバル化に努めた。
認定こども園	2024年度も地域連携活動、グローバル教育活動共に積極的に取り組んだ。保育者の国外研修実施が課題である。
中学校 高等学校	地域連携や国際交流の在り方を検討し、再構築しながら実施した。
キリスト教 センター	本学園の特色を出張キャロリングやハンドベル演奏などで分かち合うことができた。また、留学生を生かして、国際交流・異文化交流もできた。

1. 地域社会貢献への積極的活動実施		B	
大学	地域の要請により様々な公開講座の実施、産学官による連携、リカレント教育や『IC with U』プロジェクトも進んでいる。		
認定こども園	2024年度も地域社会との交流や近隣中高生のボランティア、職場体験の受け入れを行った。		
キリスト教センター	学生・生徒が「世の光、地の塩」として、地域に出て行ってキャロリング(大学生聖歌隊)や讃美奉仕(中高コーラス部やハンドベル部)をすることで学園の地域貢献ができた。		
2. グローバル化の推進		B	
大学	海外提携校との連携を強化している。今後も派遣および受入海外留学生を増やすための支援体制を整えるとともに学内のグローバル化にも努める。		
認定こども園	留学生との交流を実施した。また、グローバル教育活動において3歳以上児はバイリンガルシアターを鑑賞し、英語に親しんだ。		
中学校 高等学校	従来の中学高校豪州短期留学、高校米国短期留学、豪州及び米国の短期留学生の受入に加え、中学シンガポール短期留学を開始した。		
3. 地域社会との連携を推進し、外部人材および資源の活用		B	
中学校 高等学校	外部審査員による探究活動への評価や助言、国立大学による部活動への指導を通して、地域連携を強化した。		
4. 海外のキリスト教系学校学生との交流		C	
キリスト教センター	コロナ禍の影響もあり、米国のキリスト教系大学からの音楽ユニットの受け入れは叶わなかったが、本学(園)への留学生による英語チャペルなど、国際・異文化交流ができた。		



- ・キャリア教育、就職・進学支援の向上を図り、学生・生徒の夢の実現に寄与する。
- ・学生・生徒の卒業後の満足度を上げる。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S] 100%達成している	[A] 81%～99%達成している
	[B] 61%～80%達成している	[C] 41%～60%達成している
	[D] 21%から40%達成している	[E] 1%から21%達成している
	[-] 0%、もしくは該当しない	



大科目：4年間の実行結果・評価説明

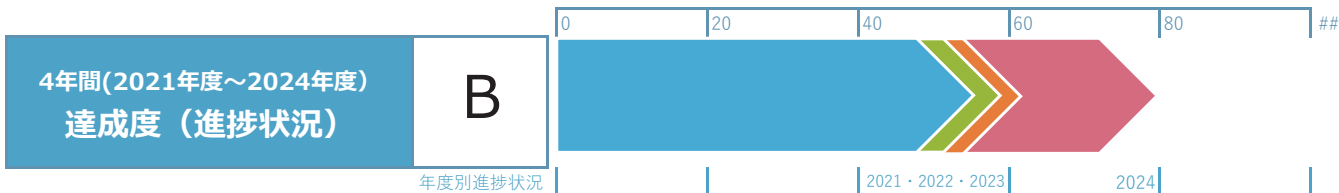
大学	キャリア教育、教員採用試験・国家試験においては確実な成果をあげている。今後、より成果の充実を図るために各組織の連携強化および、全学的に卒業生と在学生・教員とのネットワークの構築を促進した。
中学校 高等学校	進路ガイダンスや宿泊行事を通してキャリア教育を実践し、進路指導を強化した。

1. 進路支援に対する組織的な支援体制の強化	A	
大学	教職支援センターの設置、体系的キャリア教育の継続により教育力の向上が図れ、教員採用試験や国家試験では多数の合格者を輩出した。また、学園祭や記念行事をはじめとしたイベントを通し卒業生との連携を推進している。	
2. キャリア教育の実践と充実	B	
中学校 高等学校	進路学習指導や宿泊行事において専門スキルを持つ外部人材を積極的に登用し、キャリア教育活動を実践した。	
3. 学習指導と進路指導の強化	B	
中学校 高等学校	国立大学による公開講座を中高生に宣伝・受講させ、進路実現への意識高揚に努めると同時に、手厚い個別指導を実施した。	



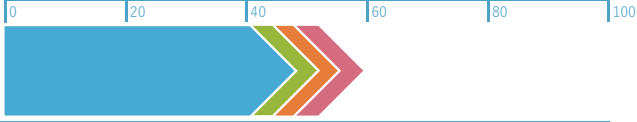
- ・学生・生徒・園児数を継続的に確保する。
- ・環境変化に対応する事業と財務のバランスを図り財務基盤を強化する。

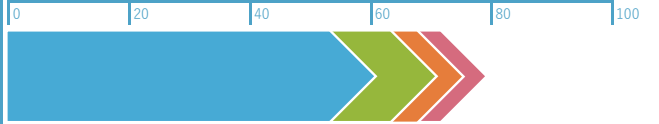
達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している	[A]81%～99%達成している
	[B]61%～80%達成している	[C]41%～60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から21%達成している
	[－]0%、もしくは該当しない	

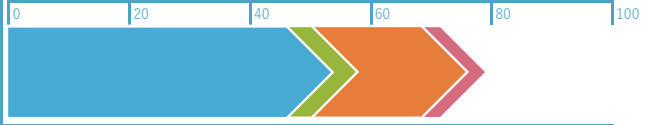


大科目：4年間の実行結果・評価説明

大学	良好なコミュニケーションに基づく適切なガバナンスが機能しており、入学者数確保に係る諸施策を実施、安心と安全のための環境整備も整いつつある。
認定こども園	補助金や寄附金が得られている。今後も多様な収入源の確保と経費削減の方策を検討し続けていく。
中学校 高等学校	中学校、高等学校とも入学定員を確保できていない。学納金改定を行ったが財政基盤安定には至らない現況にあり、さらなる魅力ある学校づくりを推進する。
法人事務局	いずれの学校においても入学者・在籍者の確保に苦慮する中、寄附金受領は年間目標額を達成した。寄附金の有効活用実績も広報に繋げることができた。
キリスト教 センター	学園が建学の理念を追求しつつ、健全な学園運営をしていくにあたり、そのために必要な教育の充実化と財政の安定化を祈り続けていく。

1. 組織ガバナンスの強化		A	
大学	学長の基本方針「密接なコミュニケーション」が浸透しており、「適切なガバナンス確保」に皆が努めており、「自己点検・評価報告書」も毎年度公開できている。点検項目も内部質保証方針でより精緻化した。		
2. 予算配分の適正化		C	
大学	オープンキャンパスで学長自ら本学をアピールする時間を設け、本学をアピールする工夫をしている。後期の入試に向けて様々な「入学者数確保」策を実施している。		
認定こども園	日立市の人口動態と利用者ニーズに基づいた利用定員の見直しを行い、効果的な園児募集活動を行うことで経営目標と総園児数の確保に努めた。		
中学校 高等学校	第一志望者数は維持できている。学業特待生、体育特待生とも選考基準の見直しを図り複数年が経過し、2025年度入試においても奨学費支出の抑制ができた。		
法人事務局	私学を取り巻く厳しい社会状況や人口減少の影響もあり定員確保が困難な中、大学全体としては入学定員を上回る入学者確保ができた。		
キリスト教 センター	各種事業実施において引き続き、少額の予算で最大限の効果を生み出す努力をしている。また、今後も、学園の埋もれた遺産(主に歴史的遺産)を発掘したい。		
3. 収入の多様化と経費節減による財政基盤強化		C	
大学	学環がスタートし、新たな収入源となった。行政や民間との提携を積極的に進めるとともに、補助金獲得についても鋭意有効策の検討を続けている。		
認定こども園	2024年度より一時預かり、延長保育料金の見直しを行った。今後も収入の多様化と経費削減の方策を検討し続けていく。		
中学校 高等学校	中学校、高等学校とも2024年度入学生から学則改定（学納金改定）を行ったが、財政基盤安定には至っていない。		
法人事務局	各学校・園の保護者や同窓会会員への寄附事業案内を継続したこともあり、年間目標額を達成するとともに、寄附金の有効活用を広報に繋げた。		
キリスト教 センター	DX(ペーパーレス化)、節電、他部署の備品の再使用など、可能な範囲で経費節減に努めた。		

4. 中長期修繕計画の策定と必要資金の確保	B	
法人事務局	中長期修繕計画の策定を進めるとともに、将来の施設維持管理コスト適正化のための校舎施設改修事業を実施した。	

5. 安心と安全に基づく環境整備	B	
大学	災害への物的備えや人的訓練について充実しており、警備体制・情報管理体制のうち関係者間の迅速な情報共有といった意識面での不安もないが、不審者侵入や盗撮などで課題がある。	
認定こども園	セキュリティーと共に施設や園庭遊具の安全点検に努めた。乳幼児を預かる施設として安全点検と環境整備を強化していく。	
中学校 高等学校	防災避難訓練は毎年行い、また、原子力災害を想定して備蓄品も毎年更新している。防犯カメラも必要に応じて活用している。	
法人事務局	近年激化する自然災害の発生に備え、キャンパス内危険個所の洗い出し、学園総合防災訓練を継続実施した。また、防犯・警備体制の強化にも努めた。	
キリスト教 センター	命の尊さと平和の大切さを訴える「アンネのバラ」を学園キャンパスに年々増やしている。また、苗木配布も継続しているが、苗木づくりの体制も整備していく。	

学校法人 茨城キリスト教学園

■ 茨城キリスト教大学大学院

文学研究科 英語コミュニケーション専攻
生活科学研究科 食物健康科学専攻
心理学専攻
看護学研究科 看護学専攻

■ 茨城キリスト教大学

文学部 文化交流学科
現代英語学科
児童教育学科（児童教育コース・幼児保育コース）
生活科学部 心理福祉学科
食物健康科学科
看護学部 看護学科
経営学部 経営学科
未来教養学環

■ 茨城キリスト教学園高等学校

全日制普通科

■ 茨城キリスト教学園中学校

完全中高一貫6年制教育

■ 茨城キリスト教大学附属認定こども園

せいじ園・みらい園

第15期中期経営計画 2021年4月1日開始

Peace
Truth
LOVE



茨城キリスト教学園

〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-11-1

TEL: 0294-52-3215(代)

FAX: 0294-52-3493

<https://www.icc.ac.jp/edu/>

